

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエントリスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。					【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。											
コースのOP(カリキュラム編成方針) 【生命理工学類のOP】 生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。 【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。					コース(専攻)の学習成果 (◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)											
コース(専攻)のカリキュラム																
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	1	2	3	4	5	6	7	8	9
20012	アントレプレナーシップ論	アントレプレナーとしての物事の捉え方、考え方を理解する。アントレプレナーとして必要な挑戦的意欲や創造性、新規事業創出、ベンチャー経営について理解する。これらを理解した上で自身の将来を描き、大学における学修や研究への取り組み意欲の向上につなげる。	1										◎		◎	
20041	アカデミックスキル	大学で学ぶ上でかかすことのできない主体的・自主的学習への動機づけを行い、専門教育を含む大学教育全般に対する能動的学習に導くことを目標とする。ディスカッションを通して、大学生としての自己表現能力、学習デザイン能力、及び論理的な思考方法を育成する。	1	1					◎				○	○	○	◎
20042	プレゼン・ディベート論	自ら課題を発見し調べてまとめることで、学習デザイン能力と論理的な思考力を向上させる。ディスカッションやプレゼンテーションを経験することで、話す・聞く・書くなどの日本語能力や自己表現能力を向上させる。	1			1			◎				○	○	○	◎
20022	生物科学概論A	生物学の分野の研究において重要な先端的な技術について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1	1					◎							
20023	生物科学概論B	バイオ工学・海洋資源の分野の研究において重要な先端的な技術について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1		1				◎							
20209	生命理工学概論A	生物学の分野での重要で先端的な研究について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1				1		◎							
20210	生命理工学概論B	バイオ工学・海洋資源の分野での重要で先端的な研究について理解するとともに、「理学」と「工学」の両面からこの分野の魅力と問題点を概観できる。	1					1	◎							△
25001	生物多様性と進化A	本講義では、アリストテレス以来の生物多様性認識の歴史を辿り、今日の多様性認識が形成された背景を学ぶ。また、生物多様性を認識する現代的な方法論や生物多様性を創出するメカニズムを学ぶ。そして、その知識を将来の地震の専門分野に生かす方法に思いを巡らせられるようになることが、本講義における学生の達成目標である。	2	1					◎	○	◎					
25002	生化学A	生物体は様々な物質から成り、それぞれの物質が特有の機能を果たすことにより生命が維持される。本授業では、水や炭素の化学的な性質を知り、生物体を構成する分子について化学的に理解する。さらに、化学の法則に基づいて、生体内で起こる様々な反応を理解する。	2	1					◎	◎		○	○			

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエントリスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学習し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学習し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
25003	生理学1A	1. 先端的な植物科学に関する専門知識を習得するための基礎として、植物の構造と機能についての基礎知識を身につける。 2. 植物科学にとどまらず、生物の構造と機能に関する普遍的な事象について、その共通性を正しく理解し、生命現象の原理を身につける。 3. 植物が示す生命現象の背景にある基本原理を、物理学や化学の基礎知識に基づいて正しく理解する。	2	1				◎	◎	○
25004	生理学2A	体は、どのような組織・器官からできていることから始まり、外部環境が変わっても内部環境は一定であること、体の中では、種々の生理現象が、巧妙な仕組みの下に行われていることを概説する。腕を曲げるという行為一つをとっても、複数の筋肉が運動した結果、曲がるということを理解できる。朝、牛乳を飲んででもその水分はどこでどうなるという当たり前の事に興味をもち、授業を理解できる。	2		1			◎	◎	◎
25005	遺伝子と情報A	遺伝子に書かれた情報は、親から子へ、子から孫へと受け継がれる生命の設計図である。生命は、その設計図をもとにRNAを合成し、最終的に機能分子であるタンパク質を合成する。生命の設計図であるゲノムはどのような言葉で書かれ、どのようなときに、どのような方法で読み取られ機能するかを理解することは、生物学の最重要課題であり、本授業の到達目標であり、かつ、学習目標である。	2		1			◎	◎	◎
25006	遺伝学A	古典遺伝学の基礎を学び、それぞれの結果がどのような実験によって明らかになったのかを理解する。古典遺伝学の背後にある分子の基盤の詳細を把握する。	2		1			◎	◎	◎
25007	基礎生態学A	・生態学の基礎分野の基本概念と技術を習熟する。 ・基礎分野の知識と技術を応用分野に活用する方策を学ぶ。 ・科学英語を習熟する	2	1				○	△	◎
25008	海洋生物学A	魚類生理学・魚類免疫学について概説したのち、魚類に特徴的なものとして自然免疫系を主体とする生体防御機構について具体的な例を挙げながら学ぶ。	2		1			○	◎	○
25009	資源生物学A	基礎研究や物質・生物生産で用いられている様々な生物資源を紹介し、その生物学的特性と有用性を中心に学ぶ。また、それらが貢献している研究・産業の実例についても概説する。この科目により生物資源についての基礎知識を修得する。	2		1			◎	○	◎
25010	保全生物学A	・生物多様性や生態系を守る意義について自分の見解を述べるができる。 ・生物多様性や生態系を劣化させる主要な環境要因を挙げることができる。 ・生物多様性や生態系の保全と再生の現状と課題について習熟する。	2		1			○	△	◎
25011	発生生物学A	地球上には実にさまざまな動物がいる。この授業の目標の1つは、無脊椎動物の代表的な門を特徴づける基本的な体制を理解することである。もう1つの目標は、この多様性を生み出した発生過程の全体像を把握し、その共通性と多様性を理解することである。	2		1			◎	◎	△

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)										
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエントリスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>					<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○=学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>										
<p>コースのOP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>					<p>コース(専攻)の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p>										
<p>コース(専攻)のカリキュラム</p>															
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4								
25012	生物学基礎実習1	生物学は実験科学でありながらも、高校教育では生物学実験の授業は少ない。生物学基礎実習1は生物学基礎実習2とともに「実験のおもしろさ」を体感する実習授業である。生物学はその対象の多様性を反映して実験実習を特に重視しているが、生物学基礎実習1ではその基礎として毎回、工夫された実験を行う。微生物、植物、動物の個体レベルの実験が準備されている。この授業により生物学実験の基礎を修得することができる。	2	1				◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○
25013	生物学基礎実習2	生物学は実験科学でありながらも、高校教育では生物学実験の授業は少ない。生物学基礎実習2は生物学基礎実習1とともに「実験のおもしろさ」を体感する実習授業である。生物学はその対象の多様性を反映して実験実習を特に重視しているが、生物学基礎実習1ではその基礎として毎回、工夫された実験を行う。微生物、植物、動物の個体レベルの実験が準備されている。この授業により生物学実験の基礎を修得することができる。	2		1			◎	◎	◎	◎	○	○	◎	
25059	生物学臨海実習1	海藻、海産魚及び海産無脊椎動物を用いて、タンパク質及び遺伝子レベルの両面から実験を行い、その原理と操作方法を習得する。さらに環境汚染物質の生物応答についても実習を行う。	2		1			◎	◎						
25060	生物学水産実習1	水産生物を用いて、発生的・生理学的・生化学的な実験を行う。さらに魚類胚を用いた実験を例に、遺伝子機能制御法の基礎知識・技術についても学ぶ。	2		1			◎	◎	◎					
20039	バイオデータベース演習A	1. 生命情報データベースの使い方を理解する 2. DNA配列やタンパク質配列の多重配列プログラムの使い方を理解する	2	1				◎		◎					
20040	バイオデータベース演習B	DNA、遺伝子、蛋白質、そして化合物関連データベースの使い方を演習を通して理解する。	2		1			◎		◎					
20037	バイオ統計学演習A	1. 確率分布、検定、相関係数について理解する。 2. 生命理工学の研究における、確率分布、検定、相関係数の役割を理解する。 3. 確率分布、検定、相関係数について、RやExcelを使った計算方法を習得する。	2		2			◎		◎					
20038	バイオ統計学演習B	1. 回帰、分類、クラスタリングについて理解する。 2. 生命理工学の研究における、回帰、分類、クラスタリングの役割を理解する。 3. 回帰、分類、クラスタリングについて、RやExcelを使った計算方法を習得する。	2			2		◎		◎					
25020	バイオプロダクションA	バイオプロダクション、再生医療、がん治療、地球温暖化防止、環境浄化に関して、基礎的な知識を身につけるとともに、説明できるだけの学力を身につける。	2	1				◎		◎	◎				
25021	バイオプロダクションB	バイオプロダクション、再生医療、がん治療、地球温暖化防止、環境浄化に関して、基礎的な知識を身につけるとともに、説明できるだけの学力を身につける。	2		1			◎		◎	◎				

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>					<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○=学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学習し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>											
<p>コースのOP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、海洋資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>					<p>コース(専攻)の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)</p>											
<p>コース(専攻)のカリキュラム</p>																
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25022	有機化学A	1. 化合物の種類・構造(立体構造を含む)・命名法を学び、化学反応について広く理解する。 2. 化学的な事象を分子レベルの視点から理解し、化合物の構造や電子状態から特性(物性)を理解する。 3. カルボニル化合物の化学反応について広く理解する。	2	1								○		○	△	△
25023	有機化学B	1. 有機化合物の多様性と反応性の違いについて理解する。 2. ハロアルカン、アルコール、エーテル、アミン類、アルケン、アルキン、芳香族化合物の化学反応について広く理解する。 3. その他化学反応について知る。	2		1							○		○	△	△
25024	バイオ工学基礎A	1. バイオ工学や生命情報工学は、どのような原理や理論、要素技術に基づいているかを理解する。 2. バイオ工学は、どのような工業分野で実際に活用されているかを理解する。	2	1								◎		◎		
25025	バイオ工学基礎B	1. バイオ工学や生命情報工学は、どのような原理や理論、要素技術に基づいているかを理解する。 2. バイオ工学は、どのような工業分野で実際に活用されているかを理解する。	2		1							◎		◎		
20101	学域GS言語科目Ⅰ(理工系英語Ⅰ)	e-Learningを活用した本授業の学習目標を以下にまとめる。 (1) 科学技術分野の基本的な英語知識を取得する。 (2) 科学技術英語に関する英語力を向上させる。	2	1											◎	
20102	学域GS言語科目Ⅱ(理工系英語Ⅱ)	e-Learningを活用した本授業の学習目標を以下にまとめる。 (1) 科学技術分野の基本的な英語知識を取得する。 (2) 科学技術英語に関する英語力を向上させる。	2		1										◎	△
25026	生物多様性と進化B	生物多様性と進化を最も直接的に認識する方法は、地層や化石に刻まれた情報を観察することである。本講義では、化石記録や地質史学に基づく生物の進化史を学ぶ。また、化石記録に見られる進化的生物学的意義を考える。本講義の目標は、様々な知識を活用して、古生物が持つ意義を想像できるようになることである。	2			1				◎	○	◎				
25027	生化学B	生物体は様々な物質から成り、それぞれの物質が特有の機能を果たすことにより生命が維持される。本授業では、生命の基本単位である細胞について理解する。また、生命活動によりエネルギーがどのように変換されて伝達されるかについて理解する。	2			1				◎	◎		○	○		
25028	生理学1B	1. 先端的な植物科学に関する専門知識を習得するための基礎として、植物の構造と機能についての基礎知識を身につける。 2. 植物科学にとどまらず、生物の構造と機能に関する普遍的な事象について、その共通性を正しく理解し、生命現象の原理を身につける。 3. 植物が示す生命現象の背景にある基本原理を、物理学や化学の基礎知識に基づいて正しく理解する。	2		1					◎	◎		○	○	△	△

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
--------------------	--

<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらにコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>
---	--

コース(専攻)のカリキュラム	
----------------	--

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	1	2	3	4	5	6	7	8	9
25029	生理学2B	生体は、どのような組織・器官からできていることから始まり、外部環境が変わっても内部環境は一定であること、体の中では、種々の生理現象が、巧みな仕組みの下に行われていることを概説する。腕を曲げるという行為一つをとっても、複数の筋肉が運動した結果、曲がるということを理解できる。日常生活における様々な事象に疑問・興味をもち、授業を理解できる。	2								1	◎	◎	◎		
25030	遺伝子と情報B	本授業の到達目標かつ学習目標は、生命の設計図である遺伝子に書かれた情報がどのように設計され、その設計図を基に、どのようにオペレーションされているかを理解し、生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。また、応用としての遺伝子操作などの問題を正しく理解する能力を身につけることである。	2								1	◎	◎		◎	
25031	遺伝学B	現代遺伝学の基礎を学び、それぞれの結果がどのような実験によって明かにされたのかを理解する。最近驚異的な発展をみせているゲノム科学やフォワード遺伝学を詳細に把握することを目標にする。	2								1	◎	◎			◎
25032	細胞学	細胞内の情報伝達、細胞分裂や細胞周期の制御が、どのように行われているのか、基本的な事象を分子レベルで理解できる。多細胞生物において重要な役割を担う細胞間のコミュニケーションの分子基盤についても理解できる。	2								1	◎	◎	◎	◎	◎
25033	がん生物学	がんが遺伝子の病気であることを理解し、分子生物学や生化学の知識をもとに、細胞がどのようにしてがん化するのか、その分子メカニズムを説明できる。がんの悪性進展、がん細胞と周囲の環境との相互作用、がん幹細胞など、がんを多角的に捉えて理解できる。	2								1	◎	◎	◎	◎	◎
25034	システム生物学	細胞の様々な機能は、複雑な遺伝子発現制御によって生み出される。複数の遺伝子間の制御関係はネットワークとして捉えることができ、その時間動態を調べることがシステム生物学の一つの課題である。授業ではシステム生物学が扱う問題と遺伝子制御ネットワークの解析手法について概説する。様々な具体例を通して、遺伝子制御ネットワークとはどういうものか学び、細胞内のmRNAやタンパク質濃度の時間動態を制御する仕組みを理解する。さらに、生命現象を数理的な視点から捉えることができるようになることを目指す。	2								1	◎	◎	◎	◎	◎
25035	基礎生態学B	・生物多様性や生態系を守る意義について自分の見解を述べるができる。 ・生物多様性や生態系を劣化させる主要な環境要因を挙げるができる。 ・生物多様性や生態系の保全と再生の現状と課題について習熟する。	2								1	◎	△	◎	◎	◎
25036	保全生物学B	生物多様性や生態系の保護・保全の現状と課題を学び、それら生物多様性や生態系を守る意義についての理解を深め、具体的な保全手法についても学ぶ。	2								1	◎	△	◎	◎	◎
25037	発生生物学B	地球上には実にさまざまな動物がいる。この授業の目標の1つは、脊椎動物の進化を派生的な形質に基づいて理解することである。もう1つの目標は、脊椎動物の発生における三胚葉形成とそれぞれの胚葉に由来する組織の発生を理解することである。	2								1	◎	◎	◎	△	△

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学習成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学習し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを解明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学習し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム																				
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4													
25038	組織形態学実験	動物の体がどのように構築されているのかを明らかにするための組織学・形態学的手法を学ぶ。免疫組織化学や in situ・ハイブリダイゼーションなどの分子生物学的手法により、昆虫の組織や形態の構築要素を可視化することが出来るようになることを学習の到達目標とする。	2			1			○	◎										
25039	生化学実験	タンパク質は生物体を構成している主要成分の1つであり、生命現象の担い手である。ある生命現象を分子レベルで理解するためには、関連タンパク質を用いて試験管内で現象を再構成しなければならない。本授業では、タンパク質を精製したり、タンパク質の活性を測定したりすることにより、タンパク質の解析方法を修得する。	2				1		○	◎										
25040	生態学実験	自然界における動物の生態を野外で観察と実験によって実際に調べ、その仕組みを把握、理解し、動物類の生態学的現象の発達と進化について学ぶ。主に森林環境における動物の生活史や行動、個体群の動態、種間の相互関係などの現象を様々な観察、実験手法で詳しく調べ、その仕組みを理解、特に実感することによって科学としての生態学への関心を高め、その意義についての理解を深める。	2				1		○	○	◎				◎					
25061	発生学実験	この実験の目的は、動物の受精、初期発生、後期発生を観察することによって発生生物学の理解を深めることである。さらに移植実験をとおして発生における細胞分化を理解することが目標である。	2				1		◎	◎										
45001	生化学C	アミノ酸とリン脂質の化学的性質を理解する。いくつかのタンパク質の構造や機能を学び、生命現象にとってタンパク質がいかに重要であるかを理解する。さらに、タンパク質がどのように合成され、役割を終えたタンパク質がどのように分解されるのかを理解する。	3	1					◎	◎				○	◎					
45002	生化学D	細胞内のエネルギー生産、細胞運動、物質輸送などを中心に、生命を維持し、活動を行うために、細胞内でどのような現象が行われているのかを理解する。また、これらの生命現象において、どのようなタンパク質が関わり、それらのタンパク質がどのように役割をはたしているのかを理解する。	3			1			◎	◎				○	◎					
45003	分子生物学A	ワトソンとクリックによるDNAの二重らせんの発見以降、分子生物学は誕生し、近年、急速に発展した。ヒトゲノムの全塩基配列も決定され、分子生物学はまさに今日の科学をリードしている。本授業は「発生」の分子生物学がテーマで、学習の到達目標は「遺伝子をベースに個体、組織、細胞に関する生命現象の基礎的な理解」である。加えて、遺伝子クローニングや遺伝子解析技術の理解とその応用例を学ぶことも目標とする。	3	1					○	◎			◎	◎						
45004	分子生物学B	「脳神経系の分子生物学」がテーマである。本授業の到達目標は、「遺伝子をベースに個体、組織、細胞に関する脳神経系の基礎的な理解」であり、とくに脳の構造と機能について学び、情報の入力から行動としての出力までの基本的現象を理解することである。	3			1			○	◎				◎	◎					
45104	植物科学A	本講義の達成目標は、植物の遺伝子研究において実際に利用される実験手法やその原理を学び、遺伝子の機能や作用の仕組みなどについてどのようにアプローチすることができるのかを理解することである。	3	1					◎	◎				○	○					

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)											
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーで掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>					<p>【海洋生物資源コース】 以下に掲げる学習成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学修成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>											
<p>コースのOP(カリキュラム編成方針)</p> <p>【生命理工学類のOP】生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>【海洋生物資源コース】 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、海洋資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>					<p>コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)</p> <p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>											
<p>コース(専攻)のカリキュラム</p>																
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4	1	2	3	4	5	6	7	8	9
45015	植物科学B	本講義の達成目標は、1)植物の系統進化、2)植物の体の成り立ち、3)それらを実現する分子基盤、について正しく理解することである。また、各事項を有機的に結びつける能力の習得も求められる。	3		1			◎	◎	◎						
45007	細胞生理学A	生命科学の基礎研究者、またはバイオ技術者として細胞生理学に対する必要最低限の事項を理解することを学習目標とする。具体的には、細胞膜構造、細胞骨格、細胞小器官の役割、細胞小器官間のクロストーク、タンパク質の細胞内輸送および局在化などの詳細を学び、細胞内プロセスの総合的に理解に繋げる。	3	1				◎	◎			◎			○	◎
45008	細胞生理学B	生命機能を駆動する生体分子の「立体構造」と「動き」について学ぶ。加えて、生体分子が置かれる生体内の様々な環境について理解し、環境によって「立体構造」と「動き」がどのように変化するか実験解析技術についても学ぶ。	3		1			◎	◎			◎			○	
45009	生態学A	どのように生物の多様性は創出され維持されるのか、そのメカニズムを、集団遺伝学、進化生態学ゲーム理論を適用し実践的に解説、理解する。	3	1				◎	◎	◎	△		◎	◎	◎	
45010	生態学B	行動生態学の主要テーマである血縁選択と性選択について(1)個体間の利他的協力と社会制、(2)性と性の役割に関する現象を解説し、その特徴や行動メカニズム、またその進化要因と進化プロセスについての理解と知識を深める。	3	1				◎	◎	◎	△		◎	◎	◎	
45011	海洋生物学B	動物の系統分類について海産動物を中心に概説する。さらに神経・内分泌系を動物門と比較し、その進化と、海産動物の適応における神経・内分泌系の重要性を学習する。	3		1			◎	◎			○				○
45012	海洋生物学C	アミノ酸、脂質及び糖質の特徴について身近な食品を例として用いることで、学生の理解度を高める。食品の機能性を利用した特定保健用食品の例を挙げ、食品による生体調節機構を教える。	3		1			◎	◎			○				◎
45106	水産養殖学A	海産魚類の養殖技術を習得するために、魚類生理に関連した講義を行う。また、石川県の水産業に関する実証的な講義を行う。	3		1			○	○			◎	◎			◎
45014	発生生物学C	動物の個体発生と組織の再生との間には密接な関わりがある。どちらも未分化な細胞から分化・増殖することによって機能的な成熟細胞を作り出す過程が含まれる。この授業の目標は、脊椎動物の幹細胞発生と組織再生の分子機構を理解することである。	3	1				○	◎			◎	◎	○		
45015	資源生物学B	基礎的な生化学を学び、その知識を用いて、魚類の生体機能に關与するホルモンや生理活性物質の作用を理解する。	3	1				◎	◎			○				△
45107	水産養殖学B	世界及び日本の水産業、特に水産増養殖に関する基礎を学ぶとともに、最新の技術を紹介する。また、自主性・創造性・協調性を高め、潜在能力を引き出すために演習を行い、講義内容理解の深化を目指す。	3			1		◎	◎			○		○		

学域名	理工学域
学類名	生命理工学類
コース(専攻)名	海洋生物資源コース

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コース(専攻)のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>生物学・バイオ工学・海洋資源の各コースでの高い専門性のみならず、幅広い基礎力と国際的感覚を身につけて持続的社会的実現に貢献できる専門性を備えた探究心と創造性あふれるサイエンティスト、エンジニアを育成する。各コースのディプロマ・ポリシーに掲げた人材養成目標に到達した者に学士(工学もしくは理学)の学位を授与する。この人材養成目標に到達するためには、各コースの学習成果を上げることが求められる。</p>	<p>〔海洋生物資源コース〕 以下に掲げる学修成果を達成した者に、学士(理学)の学位を授与する。 ○学修成果 1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コースのOP(カリキュラム編成方針)	コース(専攻)の学修成果(◎=学修成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学修成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学修成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>〔生命理工学類のOP〕生命理工学類では、生命に関する真理の探求を目指す生命科学、産業応用と技術開発を目指すバイオ工学、それらをコンピュータの力で拡張し加速する生命情報学の観点から、グローバル社会を牽引する研究者、技術者、さらには生命に関する最先端の知識を備えた人材の育成に貢献できる教育者を養成する。まず、グローバル社会をリードする理系人材に必要な科目群を学ぶ。次に、生命についての基礎的な知識とデータ解析能力を養うために、理学と工学に共通な基礎科目群と、各コースに特化した基礎科目群を学ぶ。次に、生命のメカニズムと利用法に関する方法論、分析法、および思考法を身につけるために、より専門的な科目群を学ぶ。これらの各科目群においては、生命に関する生きた知識と技術を体得するために、実験や演習を通じた体験的学習や、アクティブラーニングの手法を取り入れている。最後に、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組むことで、現実問題への応用力と課題解決力を養う。</p> <p>〔海洋生物資源コース〕 2 年次秋冬学期開始時のコース配属後、生命現象をシステムとして理解する科目群と並行して生物多様性、海洋生物、生物資源に関する科目群を学ぶ。これらの科目群のそれぞれに対応した実習科目群を通して、生命科学および環境科学を理解する方法論、分析法、思考法を身につける。3 年次秋以降はコースに特化した専門的な科目群が用意され、各自が興味を持つ研究テーマに従って研究室に所属し、卒業研究に取り組む。</p>	<p>1 生命科学全般にわたる基礎知識を身につける。 2 生命現象を遺伝子・分子・細胞レベルで理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 3 陸上生物や海洋生物の個体・集団に見られる生物多様性の実像を把握し理解する方法論、分析法、思考法を身につける。 4 遺伝子やタンパク質の構造といった生命が持っている「情報」を分析し、生命をシステムとして理解し、生命の機能とダイナミクスを説明できる。 5 生命科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。 6 21世紀の社会における地球環境、海洋資源などの課題を解決できる研究者、技術者としての基礎的な能力を身につける。 7 グローバルな視点を持ち、日本語と英語による論述、発表、討論の能力を身につける。 8 意欲的に学修し、問題を発見、解決できる自己成長能力を身につける。 9 海洋生物、生物資源、環境科学の知識を、社会で必要とされる技術に応用する能力を身につける。</p>

コース(専攻)のカリキュラム										
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
45017	遺伝学実験	遺伝学及び数理生物学の実験的検証に用いられてきた主要手法について経験し、実験方法とその結果が持つ意味を理解できることを目標とする。	3	1				◎	◎	◎
45108	植物科学実験	1)植物の発生過程における細胞分裂や分化の例となる特定の細胞を観察し、分裂と分化に必要な遺伝子の働きを変異体の表現型から洞察する。2)生物の塩基配列の決定法や分子情報データベースの利用法を学び、分子系統樹を構築し、生物の進化過程を理解する。	3	1				◎	◎	◎
45109	生物学地域実習1	植物は環境に応じた分布を持つ。この一般則を体得するため、構高に沿った植生変化を自身で調査する。本実習の目標は、野外調査について、1)事前調査の方法、2)安全を確保しつつ調査する方法、3)得られたデータを正しく理解しその意義を議論する方法、を習得することである。	3	1				◎	◎	◎
45110	生物学特別実習	がんの生物学に関する研究に必要な分子生物学・細胞生物学実験の基本的技術を学び、がんの発症や悪性進展を分子レベルで理解する方法論及び分析法を習得する。	3	1				◎	◎	◎
45111	生物学地域実習2	本実習では、生物と人間の関わりを通じて維持形成される、里山の陸生環境の生物多様性特性を把握するとともに、その再生手法について学ぶ。	3	1				◎	◎	◎
45112	生物学臨海実習2	本実習は、生きた魚を丸ごと扱う実習である。魚を淡水から海水に移すなどの処理を行い、経時的に、採血して、血液中のミネラル濃度を測定する。これらの実験により魚の環境に適応する仕組みを、体験的に理解できる。	3		1			◎	◎	◎
45113	生物学臨海実習3	本学の臨海実験施設を利用して宿泊し、海産無脊椎動物の採集・分類・生態・行動を通じて生物の多様性や系統・進化を学ぶ。	3		1			◎	◎	◎
45114	生物学水産実習2	水棲生物を用いて、発生学的・生理学的・生化学的な実験を行う。さらに魚類胚を用いた実験を例に、遺伝子機能制御法の基礎知識・技術についても学ぶ。	3		1			◎	◎	◎
45115	生物学水産実習3	理工学研究域能登海洋水産センターに宿泊し、石川県に特徴的な魚介類を用いた養殖(初期発生、餌料、生産、飼育など)に関する技術を体験的に理解する。	3		1			◎	◎	◎
45044	生態学特論A	生態学や保全生物学の研究に関する最新トピックを学び、これら分野の現状における問題や将来的課題を理解する。さらにそれらに対して自身の意見や主張を考え、議論し、発表する能力を身につける。	3			1		◎	◎	◎
45045	生態学特論B	生態学や保全生物学の研究に関する最新トピックを学び、これら分野の現状における問題や将来的課題を理解する。さらにそれらに対して自身の意見や主張を考え、議論し、発表する能力を身につける。	3			1		◎	◎	◎

